

平成28年度 事業報告

平成28年の日本経済は、ここ数年改善が見られていた企業業績が、円高傾向による企業収益の減益へと転じることとなった。雇用環境は就業者数、雇用者数、雇用者報酬のいずれにおいても改善傾向が続くが、英国のEU離脱、アメリカ新政権の誕生、東アジア情勢の懸念など、内外の先行きの見えない不安心理もからみ、国内消費マインドは低迷を続けている。

とはいえイベントを取り巻く業界では、電通発表による1～12月の総広告費は6兆2,880億円(前年比101.9%)と5年連続で前年を上回った。相変わらずインターネット広告費(同113.0%)が押し上げの主役となっているが、イベントに関連のある領域では展示・映像他のジャンルが同104.3%と媒体別では2番目の伸長率となった。地方創生や、インバウンド4000万人達成といったテーマに向けてのさまざまな取り組みに、展示や動画映像等を中心に多種多様なイベントが活用されていることが推察できる。これは第3回を迎えたJACEイベントアワード(経済産業省後援)のエントリー作品の状況からも見てとれるところである。企業のみならず地方自治体、団体が地域ブランド戦略の視点から、マーケティング活動やコミュニケーション施策にイベントの持つ「リアルな体験」を組みこむパターンは定着している。

JACE自身の研究活動でもある来場者消費額によるイベント市場規模推計(6月末発表予定)では、平成27年度前年割れとなったイベントの会場内消費額が3兆1,877億円(対前年102.8%)と回復した。一方、イベントの前後を含めた全体消費額は16兆5,314億円(同112.9%)と5年連続の伸びを継続している。カテゴリーとしては昨年度、大きな伸びとなった「フェスティバル」は会場内、全体ともに前年を下回ったが、それでも5年間の伸長率ではトップの数字となっている。地方自治体の観光客誘致、地場産業活性化のためのイベント、ネット系ビジネスを中心としたカスタマー参加型イベントや、ゲーム業界等のリアルなファンイベントにみる、新たなカテゴリーも増えている。

当協会は設立28年目を迎えた。イベントがさまざまなプロモーション施策のコアになっているという事実や、「地方創生/地域創生、インバウンド活性にはイベントが欠かせない」という声が増えつつ高まっているといえる。昨年一年間の協会活動では経済産業省や主催者に加え、広告等のイベントに関連する団体、との接点が増え、イベントが果たしていかなければいけない役割、イベント業界への期待を実感する。

一般社団法人としての4年目の活動は、以下の事業方針のもとに実施した。

- イベント事業の新たなビジネスの発見・拡張 (R&D)
- イベント業界の全体像の把握と方向性を見極め (PDCA)
- イベント人材の育成と評価 (Education & Evaluation)
- イベント関連のセミナー事業の着手

事業活動の概況は以下の通りである。

■ 会員企業については4月時点で65社であった会員企業は、2社の脱会・賛助会員への移行があったが、新たに後述の有力会員の加盟により64社となった。賛助会員ではイベント検定資格取得を目的とした新たな学校が加わり、正会員からの移行を加えて20社から22社へ拡大となった。

■ 資格事業においては安全なイベントへの認識の高まりから、JACE会員企業に加え、イベント関連団体、地域自治体、施設管理事業者等よりの受験が増える傾向にあり、今年度も順調な受験者増となった。

一昨年から賛助校授業内受験、オープン受験の二本立てに変更したイベント検定事業においても、順調な受験者の増加が継続している。

■イベント人材の育成・評価については第3回となるJACE イベントアワードのシンボリックな取り組みに加え、その受賞案件を活用しマーケティング、東京オリ・パラ、等のイベント関連セミナーを実施したことが、資格者との関係の強化につながっているものと思われる。実際に3年ごとの資格更新率は、システム化と事務局担当の丁寧な説明対応ともあわせ、これまで壁であった80%を越える85%となった。

■他団体との連携領域も、経済産業省や従来のイベント団体の方々に加え、JETRO、東京観光財団、広告関連の諸団体へと広がりを見せ、協会の果たさなければいけない役割に期待が寄せられている。

一般社団法人としての機関運営も定着し、総務委員会、能力・コンテンツ委員会、JACE イベントアワード運営委員会他、延べ40回を超える委員会活動に支えられている。今年度は4回の開催となった理事会においても、76%を超える理事本人出席率で積極的な議論をいただいた。

昨年度、内閣府に提出した公益目的支出計画は平成27年度末時点で完済となったため、当年度10月に実行報告を提出、受理された。平成28年5月に内閣府より完了確認の報告がとどきました。今後は一般社団法人としての新たな経営を計画・実行に移せる段階に入っています。

当年度の収支の概要は以下のとおりであった。

■経常収益の合計は63,040千円となり、対前年2,800千円の増収となった。

■経常費用の合計は62,615千円となり、対前年2,533千円の増加となった。

■これにより平成28年度の税引き前当期経常増減額は425千円の収支黒字となり、税引き後の正味財産の期末残高は33,248千円となった。

■新会員

<10月入会> 【正会員】株式会社ハートス

【賛助会員】メイシス株式会社

<3月入会> 【賛助会員】学校法人大阪ビジネスカレッジ専門学校

1. 実施事業(公益目的事業)

継続1. 人材育成事業

継1-1 資格制度事業

ー1. イベント業務管理士

(1) 「イベント業務管理士2級」資格試験

2016年7月9日(土) 14:00~16:00 ・2016年11月19日(土) 14:00~16:00

会場 東京：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター／大阪：キャットミュージックカレッジ

今年度も専門テキスト『イベントプロフェッショナルⅠ／Ⅱ』に基づきイベント業務管理士試験および対策セミナーを実施した。2016年度は「イベント業務管理士2級」試験を年1回から2回に増やし、受験しやすさと受験者増を狙った。その結果、受験者250名（前年178名）、合格者209名（前年141名）合格率83.6%となった。出題形式は前年同様マークシート100問 110分とした。2016年度はホームページで合格番号を発表する速報を掲示したところ「対応がスピーディーである」「結果が早く分かり会社への補助申請がしやすかった」など、受験者からの声が寄せられた。

(2) 「イベント業務管理士1級」資格試験

2017年2月18日(土) 13:00～15:40

会場 東京：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター／大阪：キャットミュージックカレッジ

例年通り「記述5問選択と、小論文1000文字程度で150分。登録手続きの手順のマニュアル化により、受験者の手間の簡略化を狙うとともに、合否のホームページでの速報掲載を行ったところ、好評であった。ポスター、チラシ、セミナー、試験会場等でのPRにより、登録番号やロゴマークの名刺記載相談も確実に増えてきている。

1級の受験者は98名（前年81名）、合格者75名（前年61名）合格率76.5%となった。

(3) 「イベント業務管理士1級・2級」試験対策セミナー

試験合格に特化した試験対策セミナーを東京、大阪の2会場で実施した。

2級のセミナーは年2回の実施とし、6月10日、11日に大阪、6月17日・18日に東京で開催。

2回目は、10月14日、15日に大阪、10月28日、29日に東京で実施した。

1級のセミナーは年に1回で、2017年1月20日、21日に大阪、1月27日、28日に東京会場で開催した。

2級セミナーは88名（東京70名・大阪18名）、1級セミナーは59名（東京32名・大阪27名）が参加した。

(4) イベント業務管理士資格更新

3年ごとの資格更新者は、1級対象者746名のうち、更新者634名で更新率は例年の80%を上回る85%となり、更新手数料として約500万円の収益を計上した。

ー 2. イベント検定

新たなシステムをスタートさせ、2年目となった。

- ・受験資格はオープンとし、前期、後期に分け、回数を増やして試験を実施した。
- ・賛助校にはカリキュラム内での学校内受験か、オープン受験か選択制を継続。
- ・50問60分マークシート方式

結果、賛助校16校のうち、14校が講座内の試験を選んだ。2016年度も賛助校における講座受講者が大幅に増え、講座内試験での受験率も大幅に向上した。試験会場は、障がい者対応、急遽増員した場合の臨機応変な対応、セミナー、試験での同一会場などのニーズから、外部の貸し会議室の利用し、JEPIC、JEDISへ当日の運営委託をすることで効率的に運営した。

オープン受験は年2回、8月20日(土)に東京、大阪、札幌、新潟、福岡の5会場で実施し、2017年2月25日(土)は東京、大阪、新潟の3会場で実施した。合計522名（前年390名）が受験し、前年対比134%となった。

－ 3. テキスト開発

(1) テキストのデジタル対応

能力コンテンツ委員会 2016 年度は、受験者からのニーズの高かったテキストのデジタル化対応の検討を進めた。11 月に「イベント検定」をデジタル化し、2017 年 3 月に「スポーツイベント検定」「ユニバーサルイベント検定」「イベント業務管理士 1 級・2 級試験」もデジタル版で配信を開始した。これにより、現在人材育成本部で行っている検定試験、資格試験はすべて、紙版とデジタル版をそろえることができた。

(2) イベント業務管理士テキストの改訂

能力コンテンツ委員会メンバーを中心に「テキスト委員会」を設け、イベント業務管理士 1 級・2 級用の公式テキストである「イベント・プロフェッショナル」の早期改定を目標に改訂検討を進めた。分冊を一冊にまとめる等の構成、内容の吟味を行ったが、他のプロジェクトとの連携等を慎重にすすめることとし、2017 年度の発行は見送り、2018 年度中の完成を目指すこととした。

継 1－2 教育事業

－ 1. 通学講座

イベント検定事業再構築に基づき今期の検定の効率的な実施を図った。通学講座については、従来どおりに賛助会員校（大学及び専門学校、全国 15 校）にイベント業務管理士 1 級人材を講師派遣・紹介し通年のイベント講座を開設した。

－ 2. 賛助校との連携および講師育成

検定事業再構築を進めている。6 月 25 日（土）には能力・コンテンツ委員会を中心に賛助校講師と JACE との情報共有、講師同士のノウハウ共有・ネットワーク構築のために「認定校 講師向けセミナー、懇親会」を東京グリーンパレスで実施した。

継 続 2. 普及啓発事業

継 2－1 啓発セミナー

(1) イベント業務管理士資格制度、「安全ノート」を活用したセミナーの実施

他のイベント関連団体との連携を図り、以下のセミナーを開催した。

- ・ 9/8 公益財団法人東京観光財団：人材育成セミナー
- ・ 3/28 日本展示会協会主催：人材育成セミナー

「安全ノート」は研修資料としての活用が進み、2016 年度の配布数は 437 部にのぼる。よって、今までに約 6200 部配付済みで、現在在庫は 794 部となっている。

(2) 日本マーケティング協会との共催セミナー の実施

地方創生セミナー「イベント振興とマーケティングの可能性」を東阪で、新春セミナーを東京で実施。イベント業務管理士からも積極的な参画が見られ、会員会社、資格者両面での手ごたえを確認できた。

- ・ 2016 年 06 月 東京 地方創生セミナー
弘前市長、Google 陣内氏ほか 参加者 87 名（有料）
- ・ 2016 年 11 月 大阪 地方創生セミナー

松江市長、JTB 西日本 塩見氏ほか 参加者 72 名（有料）
なお、2017 年度は東京・大阪に続き、福岡・名古屋での展開を計画する。

（3）第 2 回 JACE イベントアワードの実施

第 2 回となる「JACE イベントアワード」は経済産業省の後援に加え本年より「経済産業大臣賞」を新設し、2 月から募集を開始。全応募 126 作品の中から、松江市「鷹の爪団の SHIROZEME in 松江城」が大賞、弘前市の「弘前の動く城～HIROSAKI MOVING PROJECT」がプロフェッショナル賞、他合計 7 つの部門賞が誕生し 6 月 5 日に目黒雅叙園にて表彰授賞式を開催。イベント業務管理士の選ぶプロフェッショナル大賞にも 171 名からのネット投票が集まった。資格者らしいコメントが多く寄せられたが、こちらは現登録数 2,300 名と比べるとまだまだ引き上げていく余地がある。

JACE の活動としては手ごたえのあるコンテンツとなり、セミナーへの活用の手ごたえも確認できた。後援いただいた経済産業省だけでなく、日本商工会議所、各イベント関連団体からの評価を見ている。第 3 回は本年 2 月から募集が始まった。3 月末に一次審査、4 月末に最終選考を終えた。応募件数は全 106 作品。6 月 12 日の表彰授賞式に向け作業中。

継 2-2 調査研究

ー 1. イベント市場規模調査

今年度も「イベント来場者消費額」に基準をおき 1000 サンプルでのインターネット調査を継続した。6 月末に結果を公表し、7 月には会員企業、イベント業務管理士、イベント関係団体に配布した。

平成 27 年度における来場者消費額は会場内消費額 3 兆 987 億円（対前年 93.5%）、会場前後を含めた消費額は 14 兆 6353 億円（対前年 110.1%）となった。

また平成 28 年度版からは「イベント消費規模推計」とタイトルを変えリリースする予定である。

ー 2. イベント未来創造プロジェクト関連の取組み

イベント未来創造プロジェクトをスタート（2016 年 7 月～）。イベント産業の進むべき方向、イベント・ビジネス拡大の可能性などを探ることによって、イベント産業の活性化を推進するための議論を重ねた。まずは 2017 年度「日本の広告費」（電通総研）における「イベント広告費」を新設する方向で調整中。会員各社の調査・ヒアリングへの協力をお願いする。それをベースに展示会、コンベンション等、他協会の数字を合わせ、「イベント産業規模推計（仮）」にまとめていきたい。

このプロジェクト概要については、経済産業省商務情報政策局 生活文化創造産業課（クリエイティブ産業課）西垣課長に説明し、協力を要請済み。

継 2-3 広報

ー 1. 情報発信の活性化

平成 28 年は、タイムリーにオウンドメディアである協会 HP にて「What's New」情報公開をするとともに、「JACE・メルマガ」にて会員企業、資格者 2,800 名以上の登録者に向けダイレクト発信した。

■What's New(6/1) JACE セミナー開催案内「6/27 イベント振興とマーケティングの可能性」

- What's New(6/15) 「平成 27 年国内イベント市場規模推計」の発表
- What's New(7/ 1) 「第 5 回イベント業務管理士 2 級資格試験」試験会場のお知らせ
- What's New(7/ 4) 「トピック調査」食をテーマにしたイベントに関するアンケートを実施
- What's New(7/21) 「第 5 回イベント業務管理士 2 級資格試験・合格者」の発表
- What's New(8/ 1) 「3 つの検定セミナー」東京会場終了
- What's New(8/ 1) 「第 5 回イベント業務管理士 2 級資格試験・終了」「次回 6 回受付開始」
- What's New(10/ 5) 東京消防庁要請「火災予防対策について」お知らせ
- What's New(10/ 6) 「東京 2020 参画プログラム・説明会」を実施
- What's New(10/12) 第 2 回 JACE セミナー開催案内「11/11 イベント振興とマーケティングの可能性」
- What's New(11/ 1) 「3 つの検定試験・受付開始」案内
- What's New(11/ 1) 「イベント業務管理士 1 級資格試験・受付開始」案内
- What's New(11/11) 「イベント業務管理士 2 級・試験対策セミナー」終了案内
- What's New(11/11) 「イベント業務管理士 2 級・受験票発送開始」案内
- What's New(11/16) 東京消防庁要請「火災予防対策について」お知らせ
- What's New(11/29) 「第 6 回イベント業務管理士 2 級・試験終了」案内
- What's New(11/19) 「第 6 回イベント業務管理士 2 級試験・合格者」発表
- What's New(11/29) 「3 つの検定試験・申込」案内
- What's New(11/29) 「イベント検定テキストデジタル版」配信案内
- What's New(12/12) 「第 3 回 JACE イベントアワード・応募開始案内
- What's New(12/22) 年末年始休業のお知らせ
- What's New(1/20) 「イベント業務管理士・更新対象者」の案内
- What's New(2/13) 「JACE 賀詞交歓会 2017 ・開催」報告
- What's New(2/16) 「イベント業務管理士 1 級・受験票発送」案内
- What's New(2/24) 「東京 2020 参画プログラム説明会」大阪・名古屋開催の報告
- What's New(3/15) 「イベント業務管理士 1 級資格試験・終了」案内
- What's New(3/15) 「イベント業務管理士 1 級試験・合格者」発表
- What's New(3/21) 「2017 年度資格試験・受付開始」案内

また、㈱宣伝会議からの要請により『宣伝会議』誌“インサイドメディア”に毎号計 12 回継続寄稿し、主な同誌購読層であるイベント発注者に対してイベントの社会的、経済的価値をアピールした。

ー 2. 検定サイト情報発信の活性化

2016 年度は、人材育成本部で編集・更新が可能な仕組みを活用し検定試験の案内だけでなく、合格者発表、合格者の声をタイムリーに掲載した。

2016 年度の検定の広報活動として、JACE 会員会社の合格者 9 名が登場するポスター、チラシを作成した。顔写真とともに受験のメリット等をアピールし JACE の検定の普及活動につなげた。

<検定 お知らせ>

- 6/1 「3 つの検定試験、受付中」
- 6/1 「合格者の声 ～イベント業務管理士編」
- 8/17 「8/20 イベント検定 スポーツイベント検定 ユニバーサルイベント検定 受験票送付」
- 8/25 「第 20 回 イベント検定 合格者発表」

- 8/25 「第6回 スポーツイベント検定 合格者発表」
- 8/25 「第3回 ユニバーサルイベント検定 合格者発表」
- 9/20 「イベント検定・スポーツイベント検定・ユニバーサルイベント検定の試験結果」
- 11/1 「3つの検定試験、受付開始」
- 11/29 「イベント検定のテキストデジタル版が順次配信！」
- 11/29 「3つの検定申込受付中！」
- 2/23 「2/25 イベント検定 スポーツイベント検定 ユニバーサルイベント検定 受験票送付」
- 3/7 「第21回 イベント検定 合格者発表」
- 3/7 「第7回 スポーツイベント検定 合格者発表」
- 3/7 「第4回 ユニバーサルイベント検定 合格者発表」
- 3/17 「合格者からのお便り」
- 3/22 「2017年度試験、受付開始」

2. その他事業(一般収益事業)

他1. 支援事業

他1-1 スポーツイベント検定

今年度は賛助会員校の中で順天堂大学、城西大学で「スポーツイベント検定試験」を行なった。また昨年度に引き続き近畿日本ツーリストで「スポーツビジネス体験プログラム」の中でスポーツイベント検定の受験を実施した。受験者は165名(前年268名)となり、前年度の61.6%と受験者は伸び悩んだ。イベント検定、ユニバーサルイベント検定と合わせ年2回の試験実施としたが受験者減となった。

現場実習も昨年同様、5月14日(土)、15日(日)WTSトライアスロンシリーズ横浜大会にて実施した。

他1-2 ユニバーサルイベント検定

今期も「ユニバーサルイベント検定」を年2回8月と2月に実施した。視覚障がいの方や軽度知的障害、肢体障がいの方の受験申込もあり、UDジャパンの協力のもと滞りなく実施することが出来た。

一方で、JACEの会員会社を含め、関係者の受験が頭打ちとなっており、受験者は63名(前年162名)と伸び悩んだ。

他1-3 支援セミナー

会員およびイベント業務資格保有者への情報支援やビジネスマッチングを目的として、タイムリーなコンテンツの無料セミナーおよび説明会を実施した。

- 「東京2020参画プログラム」説明会【東京会場】(10/5)

Hakuhodo Learning Studioを会場に、東京2020組織委員会幹部による「プログラムの枠組」「プログラム参画のメリット」「申請方法」等の説明会。会員及びイベント業務管理士120名が参加。

- 「東京2020参画プログラム」説明会【大阪会場】(1/25)

大阪駅北のコングレコンベンションセンター会議室を会場に、東京会場同様に東京2020組織委員会幹部による「プログラムの枠組」「プログラム参画のメリット」「申請方法」等の説明会。会員・イベント業務管理士及びJEPIC・JEDIS会員等190名が参加。

- 「東京2020参画プログラム」説明会【名古屋会場】(2/7)

(株)新東通信本社ホールを会場に、東京会場同様に東京 2020 組織委員会幹部による「プログラムの枠組」「プログラム参画のメリット」「申請方法」等の説明会。会員・イベント業務管理士及び J E P C ・ J E D I S 会員等 200 名が参加。

□ 「JACE 新春セミナー」(2/15)

Hakuhodo Learning Studio を会場に、博報堂生活総合研究所：石寺所長を迎え「みらい博 2017～好きの未来」と題した研究報告を共有。経済産業省、会員企業、イベント業務管理士、100 名強が参加した。

□ カナダ「ケベック州デジタルエンターテインメント企業セミナー」(3/15)

主催：カナダ大使館・ケベック州政府在日事務所、協力：JACE・J E P C にてカナダ大使館を会場に実施。Moment Factory 社や DUF0UR, Maison de creation 社など次世代ライブ系演出テクノロジーやクリエイティブを持つ在ケベック州企業 7 社と会員企業とのビジネスマッチングの場となった。

他1-4 交流

-1. 会員交流

例年通り、6 月 12 日に定時総会後の懇親パーティーを、JACE イベントアワードの受賞パーティーと合わせ実施した。1 月 24 日に賀詞交歓会を JACE 主催としてホテルグランドアーク半蔵門にて実施した。経済産業省はじめイベント 4 団体や、関係団体幹部各位の参加も得て、従来以上に広い会員相互の交流を促進した。

-2. 業界団体との交流

7 月 15 日に合同ゴルフコンペ『第 5 回日本イベントカップ』をロッテ皆吉台カントリークラブにて開催した。後半には日本広告業協会を中心とする広告関連団体に加盟し交流範囲を大きく拡大した。1 月の広告界合同年賀会（帝国ホテル）にも 31 団体目として主催側として参画した。

-3. 賛助会員 認定校講師との交流

JACE の正会員、賛助会員で、大学、専門学校で「イベント検定」「スポーツイベント検定」の授業を実施している 17 校中 13 校、12 名の講師に出席いただき、2016 年 6 月 25 日（土）に東京グリーンパレスで「認定校 講師向けセミナー・懇親会」を実施した。

第 1 部として、JACE の活動報告、提供素材として、市場規模、トピック調査、安全ノート、イベントアワードについての報告、内山氏「障害者差別解消法～今私たちがすべきこと～」、第 2 部として、各講師の方より、学生の傾向、事業運営のノウハウを共有し、交流をはかった。その後、懇親会を行い、講師間でのコミュニケーションの橋渡しをすることができた。

-4. 行政・関連団体との交流

行政、関連団体等と定期的に情報交流を行い、イベントに関する行政施策や安全指導、プロジェクト情報等を広範に受発信した。

□行 政： 経済産業省 商務情報政策局、総務省：消防庁および東京消防庁、国土交通省：観光庁

□団体等： 日本商工会議所、展示会関連団体連絡会（JETRO、日本展示会協会、(社)日本電機工業会/展博委員会） 一社）日本ディスプレイ業協会連合会 他

□共 催： 以下の各事業に対して「共催」の名義を付与した。

「第 19 回イベント学会研究大会」「平成 29 年 広告界合同年賀会（広告関係 31 団体）」

□後援等：以下の各事業に対して「後援」等の名義を付与した。

「イベントジャパン 2016」／「イベントツールウェストジャパン 2016」／「ユニバーサルキャンプ in 八丈島」／「JAPAN SHOP2016」／「ITU 世界トライアスロンシリーズ横浜大会」

3. 機関運営

理事会および委員会

一般社団法人に求められるガバナンスの堅持のため、理事会並びに委員会の運営活性化を図った。

－ 1. 理事会

理事会の活性化と審議の深耕のため、毎四半期に 7 割超の理事ご本人の出席を得て開催のうえ業務執行理事より詳細な業務報告および議案の審議等を行った。

第 16 回（ 5/23）【 議題 及び 報告事項 】

- 第 1 号議案：平成 27 年度事業報告書・決算諸表 承認の件
- 第 2 号議案：平成 28 年度事業計画(案)・収支予算(案) 承認の件
- 第 3 号議案：平成 28 年度第 4 回定時総会開催 承認の件

第 17 回（10/12）【 議題 及び 報告事項 】

- 第 1 号議案：会員入会 承認の件
- 職務執行状況の報告 ①資格事業の進捗について
- ②JACE・JEMA 共催セミナーについて
- ③「イベント未来創造プロジェクト」について
- ④第 3 回 JACE イベントアワードの準備について
- ⑤東京 2020 参画プログラムへの関与について

第 18 回（ 1/24）【 議題 及び 報告事項 】

- 職務執行状況の報告 ①理事選任に係る書面決議について
- ②資格事業の進捗について
- ③「イベント未来創造プロジェクト」の今後について
- ④第 3 回 JACE イベントアワードの準備について
- ⑤体外活動等について

第 19 回（ 3/17）【 議題 及び 報告事項 】

- 第 1 号議案：平成 29 年度事業計画(案)・収支予算(案) 承認の件
- 第 2 号議案：会員入会 承認の件

－ 2. 総務委員会

理事ご本人 3 名ならびに理事会社幹部および基幹会員幹部にて構成し、理事会に付議すべき事項の審議および新たな事業取り組みに係る検討等を、以下のとおり 10 回開催した。

第 1 回（ 4/12 ）【 議題 及び 報告事項 】

- ・2015 年間活動報告
- ・能力・コンテンツ委員会について

- ・第2回 JACE イベントアワードについて
 - ・第4回 JACE サローネの報告
 - ・新入会員について
- 第2回（5/16）【議題及び報告事項】
- ・第2回 JACE イベントアワードについて
 - ・平成27年度の事業報告
 - ・平成28年度事業計画について
- 第3回（7/19）【議題及び報告事項】
- ・第2回 JACE イベントアワードの報告
 - ・JACE セミナー実施の報告
 - ・資格試験・検定の報告
 - ・平成28年度 主要な委員会の活動プラン共有および活動討議
 - ・イベント市場規模推計と今後の展開について
- 第4回（9/13）【議題及び報告事項】
- ・人材育成：受験状況およびテキスト改訂のタイミングについて
 - ・普及啓発：アワード受賞イベント主催自治体の視察の報告
 - ・普及啓発：新規セミナーの収支と次回セミナーについて
 - ・イベント白書準備委員会（仮称）の報告
 - ・＜講演＞リオ・オリンピック（株電通：福岡研悟様）
 - ・東京2020 参画プログラムと説明会（10/5）実施について
 - ・事務局人事異動
- 第5回（10/18）【議題及び報告事項】
- ・資格事業進捗の報告
 - ・JACE・JMA共催セミナー（大阪）について
 - ・「イベント未来創造プロジェクト」について
 - ・第3回 JACE イベントアワードの準備について
 - ・東京2020 参加プログラムへの関与について
 - ・【第17回理事会議案】新入会員の承認について
 - ・ISO 25639（中国修正提案）への回答について
- 第6回（11/22）【議題及び報告事項】
- ・東京観光財団の“東京へのイベント招致支援”について
 - ・人材育成事業の進捗について
 - ・JACE セミナー（JMA 共催・大阪）の実施報告について
 - ・「イベント未来創造プロジェクト」の進捗について
 - ・「第3回 JACE イベントアワード」の開催と協賛について
 - ・その他 報告事項
 - ①イベントの安全について
 - ②イベント学会研究大会について
 - ③賀詞交歓会の単独開催について
- 第7回（12/20）【議題及び報告事項】
- ・人材育成事業の進捗について
 - ・「第3回 JACE イベントアワード」 募集開始について
 - ・「イベント未来創造プロジェクト」の進捗について
 - ・賀詞交歓会の構成等について
 - ・その他 報告事項

①東京 2020 参画プログラム説明会の大阪開催について

②業界、プロジェクト、会員各社の情報について

第 8 回(1/17) 【 議題 及び 報告事項 】

- ・人材育成事業の進捗について
- ・「イベント未来創造プロジェクト」の進捗について
- ・理事選任に係る書面決議の状況について
- ・賀詞交歓会の構成等について
- ・その他 報告事項

①東京 2020 参画プログラム説明会の大阪開催について

②広告界合同年賀会について

③来期のセミナー企画について

④海外博覧会視察の検討について

第 9 回(2/22) 【 議題 及び 報告事項 】

- ・人材育成事業の進捗について
- ・「イベント未来創造プロジェクト」の進捗について
- ・東京 2020 参画プログラム (大阪&名古屋)
- ・新春セミナーの実施報告について
- ・JACE30 周年 (2019 年 8 月) 事業の準備について
- ・その他 報告事項について
- ・3 月総務委員会の日程変更調整について

第 10 回(3/15) 【 議題 及び 報告事項 】

- ・平成 28 年度 収支見込みについて
- ・翌期 人材育成事業計画について
- ・翌期 「イベント未来創造プロジェクト」について
- ・翌期 セミナー事業計画について

一3. 能力・コンテンツ委員会

2016 年度は、「能力・コンテンツ委員会」と「テキスト委員会」の活動を行った。

「能力・コンテンツ委員会」では、試験問題作成を中心に年に 12 回実施した。

第 1 回 2016/4/20

- ・試験スケジュール確認
- ・各試験募集開始&チラシ作成
- ・講師向けセミナー開催概要検討
- ・イベント・プロフェッショナル改訂検討

第 2 回 2016/5/24

- ・試験問題作成スケジュール確認
- ・ポスター・チラシ配布先検討
- ・講師向けセミナー開催詳細決定
- ・イベント・プロフェッショナル改訂に伴いテキスト委員会発足

第 3 回 2016/6/8

- ・試験問題作成確認 イベント業務管理士登録更新関係
- ・講師向けセミナー開催講義内容等の確認
- ・テキスト改訂委員会

- 第4回 2016/6/24
- ・試験問題進捗状況確認
 - ・講師向けセミナー開催最終確認
 - ・近畿日本ツーリスト「スポーツイベント検定」実施確認
- ※講師向けセミナー 2016/6/25 於：東京グリーンパレス 19名 終了後懇親会開催
- 第5回 2016/7/5
- ・試験問題最終確認
- 第6回 2016/8/25
- ・イベント業務管理士2級試験結果報告
 - ・3検定試験報告 合格基準点の確認
 - ・イベント業務管理士1級試験問題作成スケジュール確認
- 第7回 2016/9/27
- ・3検定試験アンケート結果報告
 - ・イベント検定テキスト 電子書籍化進捗状況報告
 - ・イベント業務管理士1級&3検定試験問題作成スケジュール確認
- 第8回 2016/10/27
- ・イベント検定テキスト 電子書籍化進捗状況報告
 - ・イベント業務管理士1級&3検定試験問題作成スケジュール確認
 - ・来年度（2017年度）試験日程検討
- 第9回 2016/11/25
- ・イベント検定テキスト 電子書籍化報告 11/28配信予定
 - ・イベント業務管理士1級&3検定試験問題作成スケジュール確認
 - ・来年度（2017年度）試験日程検討
- 第10回 2016/12/8
- ・試験&セミナー申し込み状況報告
 - ・セミナー講師へ指導内容の確認
 - ・来年度（2017年度）試験日程検討
- 第11回 2017/2/21
- ・試験関係実施報告
 - ・イベント業務管理士1級試験採点スケジュール確認
 - ・来年度（2017年度）試験日程検討
- 第12回 2017/3/9
- ・イベント業務管理士1級試験採点確認
 - ・3/15 HPにて合否発表
 - ・3検定試験実施確認 3/7 HPにて合否発表
 - ・来年度（2017年度）のポスター&パンフレット作成報告
 - ・来年度（2017年度）認定校講師セミナー開催について
 - ・3/17 書籍電子配信予定 イベント・プロフェッショナル
スポーツイベント検定テキスト ユニバーサルイベント検定テキスト

以上

平成28年度 財務諸表

貸借対照表

平成 29 年 3 月 31 日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現金・預金	32,122,706	20,172,196	11,950,510
未収金	1,590,124	3,918,426	△2,328,302
前払金	164,251	327,052	△162,801
貯蔵品	2,283,252	2,148,560	134,692
流動資産合計	36,160,333	26,566,234	9,594,099
2 固 定 資 産			
(1) その他固定資産			
建物附属設備	661,142	788,102	△126,960
什器備品	68,083	105,575	△37,492
電話加入権	599,872	599,872	
商標権	10,450	31,350	△20,900
ソフトウェア	3,451,942	4,592,291	△1,140,349
敷金	1,811,012	1,811,012	
その他固定資産合計	6,602,501	7,928,202	△1,325,701
固定資産合計	6,602,501	7,928,202	△1,325,701
資産合計	42,762,834	34,494,436	8,268,398
II 負 債 の 部			
1 流 動 負 債			
未払金	9,015,837	1,222,671	7,793,166
預り金	15,438	27,859	△12,421
未払法人税等	70,000	70,000	
未払消費税等	413,300	281,100	132,200
流動負債合計	9,514,575	1,601,630	7,912,945
負債合計	9,514,575	1,601,630	7,912,945
III 正 味 財 産 の 部			
1 一 般 正 味 財 産	33,248,259	32,892,806	355,453
正味財産合計	33,248,259	32,892,806	355,453
負債及び正味財産合計	42,762,834	34,494,436	8,268,398

正味財産増減計算書

平成 28 年 4 月 1 日から 平成 29 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取入金	(40,000)	(170,000)	△130,000
受取入金	40,000	170,000	△130,000
② 受取会費	(24,870,000)	(23,960,000)	(910,000)
正会員受取会費	22,410,000	21,750,000	660,000
賛助会員受取会費	2,460,000	2,210,000	250,000
③ 事業収益	(37,706,467)	(35,386,601)	(2,319,866)
支援事業収益	5,273,950	9,888,050	△4,614,100
人材育成事業収益	29,251,073	22,818,192	6,432,881
普及啓発事業収益	3,181,444	2,680,359	501,085
④ 雑収益	(423,591)	(729,660)	△306,069
受取利息	220	4,847	△4,627
雑収益	423,371	724,813	△301,442
経常収益計	63,040,058	60,246,261	2,793,797
(2) 経常費用			
① 事業経費	(46,102,261)	(51,879,540)	△5,777,279
★ 給料手当	1,759,462	3,553,973	△1,794,511
★ 臨時雇賃金	335,023	100,270	234,753
★ 退職給付費用		494,950	△494,950
★ 法定福利費	756,322	793,251	△36,929
★ 会議費	4,028,739	4,288,051	△259,312
★ 旅費交通費	2,491,263	3,341,548	△850,285
★ 通信運搬費	514,452	1,341,272	△826,820
★ 消耗品費	41,649	55,183	△13,534
★ 印刷物作成費	9,267,491	5,738,537	3,528,954
★ リース料		1,899,863	△1,899,863
★ 諸謝金	2,044,108	2,381,526	△337,418
★ 委託費	17,173,954	15,013,797	2,160,157
★ 図書費		7,482	△7,482
★ 広告費	1,389,249	1,906,050	△516,801
★ 会場費	4,140,911	2,817,016	1,323,895
★ 減価償却費	788,349	479,628	308,721
★ 水道光熱費		608,376	△608,376
★ 賃借料		5,109,817	△5,109,817
★ 賞典費	1,300,000	1,800,000	△500,000
★ 支払寄付金	53,000	100,000	△47,000
★ 雑費	18,289	48,950	△30,661

【注意】前年度は「公益目的支出計画」の為、★印科目の相当額を管理費から事業費用に配賦したが、今年度は同計画が完了した為、管理費からの事業費配賦をしていない。例えば「リース料」は配賦前の前年度計 2,110,960 円、今年度 2,089,460 円である。

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
事 業 費 計	46,102,261	51,879,540	△5,777,279
② 管 理 費			
★ 給 料 手 当		185,829	△185,829
★ 退 職 給 付 費 用		26,050	△26,050
★ 法 定 福 利 費		41,751	△41,751
福 利 厚 生 費	217,566	315,161	△97,595
会 議 費	1,360,903	886,056	474,847
旅 費 交 通 費	7,824	123,214	△115,390
通 信 運 搬 費	797,087	446,121	350,966
消 耗 品 費	1,672,101	299,728	1,372,373
印 刷 物 作 成 費 料	150,000	293,500	△143,500
★ リ ー ス 料	2,089,460	211,097	1,878,363
諸 謝 金	1,058,000	1,159,000	△101,000
会 費	702,000	902,000	△200,000
慶 弔 費	15,000		15,000
図 書 費		1,100	△1,100
支 払 手 数 料	425,183	284,800	140,383
租 税 公 課	1,835,833	1,742,002	93,831
減 価 償 却 費	516,452	561,185	△44,733
商 標 権 償 却 費	20,900	20,900	
★ 水 道 光 熱 費	659,373	67,599	591,774
★ 賃 借 料 費	4,800,000	567,759	4,232,241
雑 費	184,662	67,589	117,073
管 理 費 計	16,512,344	8,202,441	8,309,903
経 常 費 用 計	62,614,605	60,081,981	2,532,624
評 価 損 益 等 調 整 前 当 期 経 常 増 減 額	425,453	164,280	261,173
評 価 損 益 等 計	0	0	0
当 期 経 常 増 減 額	425,453	164,280	261,173
2 経 常 外 増 減 の 部			
(1) 経 常 外 収 益			
経 常 外 収 益 計	0	0	0
(2) 経 常 外 費 用			
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
税 引 前 当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	425,453	164,280	261,173
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	70,000	70,000	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	355,453	94,280	261,173
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	32,892,806	32,798,526	94,280
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	33,248,259	32,892,806	355,453

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	33,248,259	32,892,806	355,453

財 務 諸 表 に 対 す る 注 記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却方法
定額法によっている。

(2) 消費税等の会計処理
消費税の会計処理は、税抜方式によっている。

2. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	1,370,000	708,858	661,142
什器備品	556,377	488,294	68,083
商標権	209,000	198,550	10,450
ソフトウェア	5,851,752	2,399,810	3,451,942
合 計	7,987,129	3,795,512	4,191,617

平成 29 年度 事業計画 収支予算

I. 協会の現状

一般社団法人イベント産業振興協会は、イベントビジネスに携わる様々な業種の企業を会員とする。あわせてイベントの各ステージにかかわるイベントプロフェッショナル人材の育成にイベント業務管理士資格制度を持って取り組んでおり、受験者は増加傾向にある。

また、昨年度において一般社団法人への移行時に計画された公益目的支出計画を完了したことで、今後の一般社団法人として、更なる健全経営を念頭に置き、会員事業、資格事業をコアに平成 31 年度（2019 年度）の創立 30 周年に向けた事業計画を描くステージを迎えている。

II. 会員事業及び協会運営

イベントビジネスの伸長を見込んで協会への加盟企業は増加している。また、従来の元請けからはじまるビジネス商流のみならず、イベントの場を新たな事業フィールドとして位置付け、企業の強みを活かそうというポジティブな傾向が続いている。この数年、新たな会員は新たな資格取得による資格者増に結びつく傾向が高い。そのことに留意した正会員、賛助会員の獲得プランを描く。

2-1 会員事業

現在 65 社の正会員企業を 70 社までに増やす。そのためには後述の調査研究事業、セミナー等を中心とした普及啓発事業を積極的に展開する。また従来からのイベント関連団体のみならず、広告関連団体との連携を勧めることで協会の認知を拡大し、会員獲得のプロスペクトを増やしていく。

また大学、専門学校における学生獲得競争が進む中で、イベント 3 検定の資格取得を推進していくメリットをアピールすることで賛助会員を増やす。

2-2 協会運営

委員会、プロジェクト等の会員による活動の積極展開を図る。活動テーマ（案）としては以下を想定する。またこの委員会のあり方をふまえ総務委員会の運営方法も再検討していく

（次回理事会にて）

- ▶ イベントの安全に関するテーマ
- ▶ JACE の広報活動に関するテーマ
- ▶ 協会の 30 周年準備に関するテーマ
- ▶ セミナー事業の推進に関するテーマ
- ▶ イベント業務管理士の能力と育成コンテンツに関するテーマ（継続）
- ▶ イベントアワードの実施に関するテーマ（継続）

2-3. 事務局運営

今年度も正会員企業出向人材を中心にした運営体制を継続するが、協会ホームページを中心にした広報体制を強化する必要がある。セミナー、アワード等の普及啓発活動を通じ会員、関係者、見込み者の名簿リストの精緻化を含めた準備を進める。

Ⅲ. 人材育成事業

イベント業務管理士、イベント検定共に受験者は伸びているが、2020年に向けての現状と今後の変化をおさえる必要がある。ひとつは受験者（及び合格による資格保有者）の拡大、特に東京以外の地域における拡大。もうひとつは現行のテキストコンテンツのリニューアルである。特に前者にあたってはイベント業務管理士協会（JEDIS）との協議も適宜進める。

3-1. 資格事業 イベント業務管理士1級2級

- ▶ イベント業務管理士1級の受験資格者を増やすために、イベント業務管理士2級試験を年2回実施する。
- ▶ 試験対策セミナーの充実を図る。
- ▶ 受験者の利便性を図るため試験会場を検討する。現状は1級は東京、大阪のみ。2級は札幌・新潟・東京・大阪・福岡の5会場だが、1級、2級ともに名古屋を加えた6会場での実施可能性を検証していく。

3-2. 検定事業

- ▶ 3つの検定とイベント業務管理士2級の試験を同日に行うことで、地方の受験者が一度に2つの試験を受験できる場を提供する。
- ▶ イベント検定は、オープン受験に加え認定校の授業スケジュールに合わせた学校内受験を継続することで受験者増をねらう。
- ▶ スポーツイベント検定は関連する学校への周知を促進する。
- ▶ ユニバーサルイベント検定は、ターゲットをイベント業務管理士資格保有者に設定し、重点的に価値アピールを図る。単独での黒字化をめざす。
- ▶ 受験会場を札幌・新潟・東京・名古屋・大阪・福岡の6会場に増やす。
- ▶ 賛助校受験の維持・拡大施策として、JACE セミナーへの参加の呼びかけを図る。

3-3. 教育事業

- ▶ テキスト教材として既存テキスト、出版物のデジタルデータ化を促進する。
- ▶ イベント業務管理士1級2級の公式テキスト「イベント・プロフェッショナル」2分冊を一冊に改訂し、2018年度より改定テキストによる運用を開始する。
- ▶ 試験対策セミナー講師、賛助校派遣講師を、日本イベント業務管理士協会（JEDIS）と連携し図っていく。

Ⅳ. 調査研究事業

昨秋に実施した「イベント未来創造プロジェクト」の検討成果をふまえ、イベントビジネスに関わる協会としての調査研究プログラムを再設計する。

4-1. イベント来場者消費額によるイベント市場規模調査

- ▶ 平成24年度に再スタートした来場者消費額調査は生活者とイベントの関わり合いのベンチマークとしてきた。イベント業務管理士との関係強化の狙いは満たしつつあるが、会員企業のニーズを満足させられる状況とはいえない。コストバランスを調整しながらの継続を検討する。

4-2. イベントビジネス市場規模把握のための調査

- ▶ 会員企業からのニーズの高い領域であり、イベントビジネス市場のベンチマークとして継続調査できる体制を構築する。経済産業省からの支援を前提に、イベント産業市場規模算定のほか、イベント産業構造の把握と政策課題の抽出も視野に入れて着手する。

4-3. その他 調査研究

- ▶ 会員のビジネスに資する調査研究を行う。そのひとつとして夏期開催のアスタナ万国博覧会への視察ツアーを実施する。博覧会イベントの現場を利用した若手のノウハウ研修、ビジネスネットワーク拡大強化に資する企画として準備する。

V 普及啓発事業

JACE イベントアワードは3年目を迎え、経済産業省との連携が深まり、イベントを取り巻く様々なテーマと課題解決手法の集成としての展開を見せている。また、集まったイベントコンテンツは、昨年度に実施した会員企業およびイベント業務管理士という両ステークホルダーに対してのセミナー、研究、説明会に非常に有効であることを確認している

5-1. JACE イベントアワード

- ▶ 第3回の選考作業を進め、6/12に表彰式、受賞パーティーを実施する。引き続き第4回の開催を準備し、本年度も「経済産業大臣賞」を設定し幅広いカテゴリーの作品応募を募る。

5-2. 会員企業を対象とした事業企画

- ▶ 会員企業の抱えるテーマ解決のための受託セミナー
- ▶ JACEが仲介するイベントビジネス情報に関するセミナー
- ▶ イベント業務管理士のニーズに合ったテーマ解決のためのセミナー

5-3. 会員企業&イベント業務管理士を対象とした事業企画

- ▶ 日本マーケティング協会と共催セミナー（有料）
今年度は東京・大阪に加え、福岡・名古屋での展開を計画する。
- ▶ JACE セミナー策定のため、会員社から構成される企画チームを発足させる。
Ex. 2020 東京オリパラ等のスポーツをテーマにした JACE セミナー《有料》等
Ex. 今春実施の博報堂生活総研「好きの未来」や2020 東京オリパラ組織委員会との「2020 東京オリパラ参画プログラム説明会」等の時宜にかなったテーマ設定による JACE セミナー（無料）

5-4. 交流

- ▶ 協会のプレゼンス向上や資格受験者層の領域拡大および会員増強に資するよう、経済産業省、JETRO、イベント関連団体等との連携を一層強化するとともに、広告関連団体や各種関係団体等との交流を拡大促進する。

5-5. 広報

- ▶ Web サイトや電子メールおよびプレスリリースによる適宜の情報発信を維持しつつ、広報委員会企画による施策の試行と効果検証を行う。

■平成 29 年度 収支予算

□事業収支	事業収入	事業費用	収支差額
1. 人材育成事業	30,600,000	22,800,000	7,800,000
① イベント業務管理士1級	11,000,000	4,500,000	6,500,000
② イベント業務管理士2級	8,800,000	3,600,000	5,200,000
③ イベント検定	6,700,000	4,000,000	2,700,000
④ スポーツイベント検定	2,600,000	1,700,000	900,000
⑤ ユニバーサルイベント検定	1,500,000	1,500,000	0
⑥ 業務管理士テキスト改訂	0	5,000,000	-5,000,000
⑦ 講師育成	0	500,000	-500,000
⑧ 資格制度普及ツール	0	2,000,000	-2,000,000
2. 調査研究事業	2,000,000	8,000,000	-6,000,000
① イベント市場規模調査	1,000,000	5,000,000	-4,000,000
② イベントビジネス市場規模調査	1,000,000	2,000,000	-1,000,000
③ その他 調査研究	0	1,000,000	-1,000,000
3. 普及啓発事業	5,800,000	14,100,000	-8,300,000
① 顕彰(JACEアワード)	2,500,000	7,500,000	-5,000,000
② 啓発セミナー	1,300,000	1,200,000	100,000
③ 支援セミナー	0	400,000	-400,000
④ 交流	2,000,000	4,000,000	-2,000,000
⑤ 広報	0	1,000,000	-1,000,000
□事業収支 計	38,400,000	44,900,000	-6,500,000

	会費等収入	管理費支出	収支差額
■会費・管理費	27,320,000	20,820,000	6,500,000
新)入会金	150,000		
新)正会員会費	750,000		
既)正会員会費	23,400,000		
既)賛助会員会費	2,520,000		
雑収入	500,000		
		給料手当	1,800,000
		法定福利費	800,000
		福利厚生費	200,000
		会議費	1,500,000
		旅費交通費	500,000
		通信運搬費	400,000
		消耗品費	1,700,000
		印刷作成費	300,000
		リース料	2,200,000
		諸謝金	1,200,000
		会費	700,000
		支払手数料	1,200,000
		租税公課	1,800,000
		減価償却費	1,000,000
		水道光熱費	600,000
		賃借料	4,800,000
		雑費	120,000
■□経常収支合計	65,720,000	65,720,000	0